

# 胃ろう造設の適応

- ①90歳以下
- ②感染症がないor沈静化している
- ③血清Alb値2.5以上
- ④消化管の通過障害がない
- ⑤患者・家族が「胃ろうに関する説明のリーフレット」を読み、胃ろう造設を望んでいる

safety

Informed Consent

# 胃ろう造設のシステム

主治医



NSTへ  
依頼



栄養  
サポートチーム



外科医

消化器科医



「胃ろう造設  
希望です。」

造設の適応を  
チームで検討します

# 低栄養である場合

2週間、栄養療法を実施します。



栄養状態の改善が乏しければ、ハイリスク症例として  
造設の可否について主治医と相談します。

# リーフレットの紹介

胃ろうを考える患者様（ご家族の方）へ

平成23年8月01日  
栄養サポートチーム

## 【胃ろうって何？】

病気のため口から十分に食事が摂れない場合、お腹に小さな孔（穴）を造りチューブを通して栄養（主に栄養剤）を摂る事が出来るようになります。また、胃など消化管に溜まったガスを抜き、お腹の張りを取ることもできます。

★チューブを入れるためにお腹に開ける孔（穴）を  
総称して胃ろうといいます。

チューブを入れる位置により呼び名が変わります。  
お腹から胃に入っている場合：胃ろう  
お腹から腸に入っている場合：腸ろう



孔（穴）を造る方法は2つあります。

PEG：造影室で胃カメラ（内視鏡）とレントゲンを使いお腹と胃の壁を通してチューブを入れる手術の事です。（PEG（ペグ）と言います）

【当院の実績】

2001年から2010年の10年間で591例実施しました。PEG実施後の腹膜炎による死亡例が2例あります。最近では、より安全に行えるように胃壁固定法を併用しています。

開腹術：手術室で開腹しお腹と胃の壁を通してチューブを入れる手術の事です。

【当院の実績】

内視鏡によるPEGが行えない、又は、胃が無く腸ろうを作る場合に行います。外科手術として年間15～20例ほど実施しています。

※胃ろうは使う必要がなくなった場合には抜くことが出来ます。チューブを抜いた後、個人差はありますが孔（穴）は約1日で塞がります。

## 【胃ろうの栄養】

栄養は、カロリー、ビタミン、ミネラルなど適切な栄養バランスの栄養剤や流動食を使います。家庭にある食品も使えます。（みそ汁、スープ、ジュースなど※ミキサーにかけた物又は、具、果肉なしのもの）



液体栄養剤



ゼリー状栄養



【胃ろうについてよくある質問】（胃ろうの良い事、心配な事についてのQ&A）

### Q1. 経鼻胃管チューブとの違いはどんなことですか？

- A. 1. チューブの交換頻度が違います。  
経鼻胃管チューブは約2週間、胃ろうチューブは約6カ月に1度の交換です。
2. 胃（又は腸）に直接チューブが入ります。  
鼻や喉の不快感・苦痛がなく、飲み込みの邪魔になりません。また、自分でチューブを抜いてしまう危険性が低いため手足の抑制の必要が少なくなります。行動が制限されないためリハビリも積極的に行えます。また入浴も可能です。
3. チューブが太くなります。  
液体だけでなくゼリー状など注入できる栄養剤（食品等）が増えます。例えば、ゼリー状の栄養剤では注入時間が短くなり、活動できる時間が増えます。また、食物とはほぼ同じ形状で胃に入るため下痢や食道への逆流などの消化器症状の緩和が期待できます。

### Q2. 胃ろうにしたらトラブルはないのですか？

- A. 術後の問題として、孔（穴）周囲の皮膚の炎症や腹膜炎の発症等が考えられます。また、完全に肺炎を予防することはできません。唾液の誤嚥もあるからです。

### Q3. 胃ろうを作ったらもう食べることはできないのですか？

- A. 専門職による嚥下機能評価を行い、誤嚥などの危険性が少ないと判断された場合は、食べるためのリハビリ（嚥下訓練）を行う事ができます。嚥下機能が保たれていれば、胃ろうからの注入と口から食べることの併用も可能です。また、入浴も可能です。

### Q4. 胃ろうの他に栄養を摂る方法はありますか？

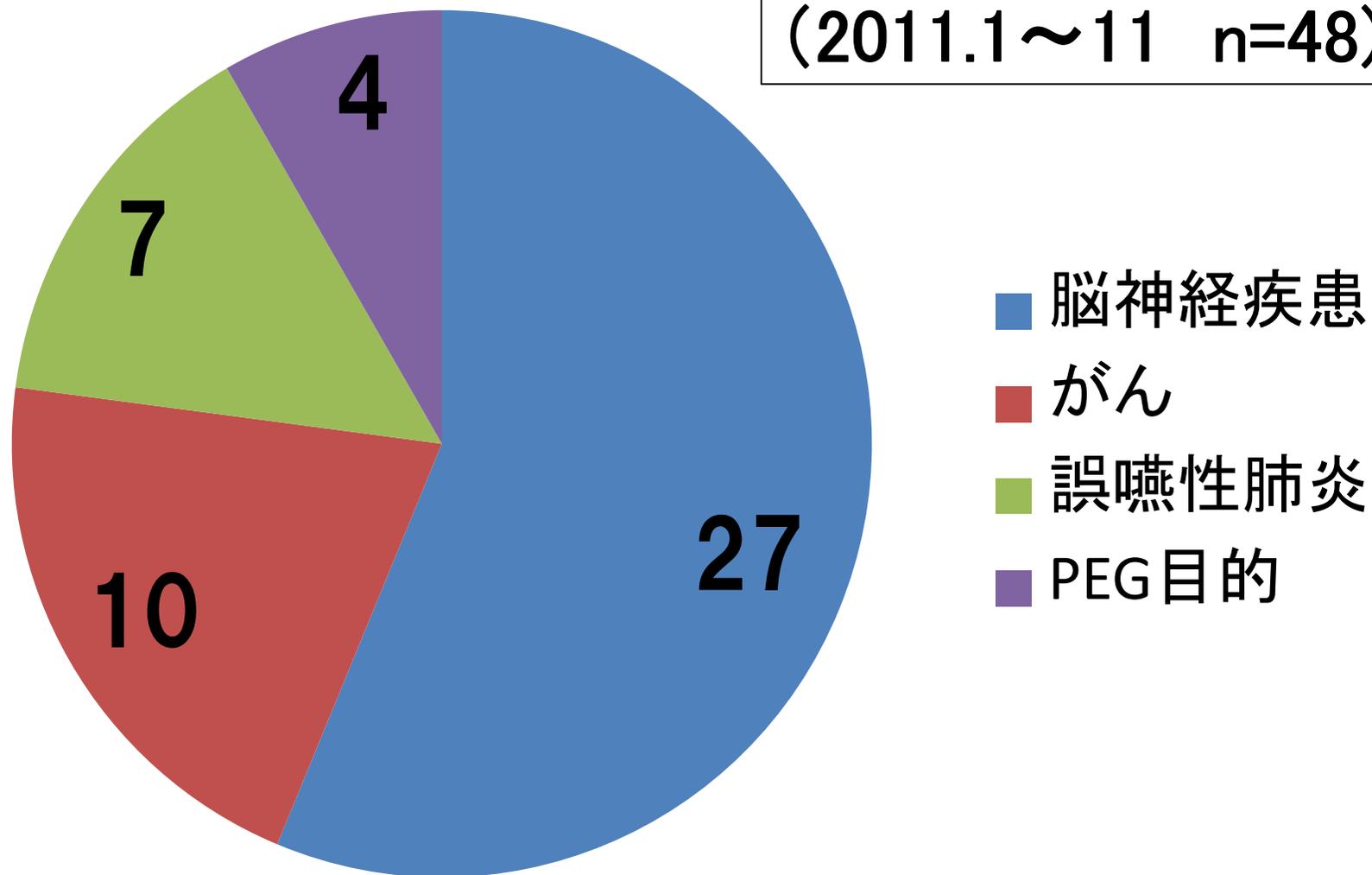
- A. ①経鼻胃管チューブによる栄養投与 ②末梢静脈の点滴による栄養投与 ③CVポート（皮下に埋め込む点滴用器具）による中心静脈栄養投与があります。経鼻胃管チューブや末梢静脈の点滴では、自宅や介護施設で生活するのは困難ですが、療養型病院では対応が可能です。CVポートによる中心静脈栄養では、自宅での生活が可能です。医師や看護師による訪問管理が必要となります。いずれの方法も生活をする場所には制約があります。詳しくは、主治医にお尋ねください。

## 【最後に】

胃ろうを作るには、ご本人による意思決定が重要です。脳の疾患や認知症などによりそれが難しい場合は家族の方に判断が求められます。胃ろうを作る事は、良い面もありますが、外科的処置を行うため危険性が全く無いわけではありません。また、本人の意思を尊重できるのかといった難しい問題もあります。胃ろうについてよく理解し、検討することが必要です。

# 胃ろう造設者の背景

(2011.1~11 n=48)



# 胃ろう造設件数の推移

